

桜萩会だより

第11号

宮崎県立小林中学校
小林高等女学校
小林高等学校
関東地区同窓会

編集兼発行人
永崎秀一郎
陽光印刷内務局
104 中央区八丁堀
3-11-13石渡方
昼03(553)9707
夜03(615)1795
昭和63年1月1日発行



年頭の辞

桜萩会会長 瀬戸山 孝一 (旧中十一回卒)

会員の皆様、明けましてお目出と
うございます。第十二回桜萩会総会
にて、会長に選任されて、始めての
新年の御挨拶を桜萩会だよりに載せ
させていただきますことになりました。
十年をこえる古き森永先輩の后を引
き継いで身のひきしまる思いであり
ますが、私なりに感じたことを述べ
せて貰います。同窓会の動きには
どうしても多少の浮きつきはあり
ます。而しそれを乗り越えて継続し
てゆくことが肝要であると思いま
す。桜萩会総会に出席される人数が増え
たり減ったりしておりますが、而し
年々少しづつ増加してきております。
又同窓会費の御振込みも同様に増加
してきております。これは一重に幹
事長始め幹事の皆様の多大の努力の
賜物であると同時に会員の皆様の認
識が次第に高まってきているあかし
でもあります。唯もう一つ欲を申し
上げますと幹事会の集りが大変悪く
なっております。幹事会に常に
少数のきまつた会員しか出席しない
と言ふことは、逆に言えば、少数の
幹事の方に多大の負担をおかけして
いると言ふことにもなります。これは
大変な問題であります。桜萩会の運
営は会員の総意に基づいて行われな
ければなりません。是非各年次の幹
事の方の幹事会への出席をお願い致
します。同窓会の運営と同時に大切
なことは、関東地区同窓会桜萩会と
しての在り方でありまして、ここで桜
萩会設立の原点を顧みる必要があり
ます。桜萩会は関東地区に在住の卒

新年御挨拶

幹事長 永崎 秀一郎 (高四回)

明けましておめでとございます。
皆様にはお元気で新年をお迎えの
ことと、拝察申し上げます。
昨年は桜萩会発展のために一方な
らぬ御協力を頂き誠に有難うござい
ました。お蔭様を持ちまして桜萩会
の運営も同窓会としての役目を果し
順調に推移しております。これも偏
りに会員皆様の御協力の賜物と深く
感謝している次第です。
今年もまた、桜萩会発展のため、
温かいお力添えを切にお願いするも
のであります。
早いもので桜萩会発足以来、十三
年を迎えますが、現在では会員数一
四〇〇名を突破しており、まだく
増える傾向にあります。
会員の皆様に桜萩会の存在意義を
いかにしたら理解して頂けるか、幹
事一同心を痛め、頭を悩ましてい



第十二回総会報告

東 五雄 (高十六回)

桜萩会六月祭も早いもので十二回
目を迎える。六月六日は役員各卒年
時の幹事による幹事会のボランティア
アで案内状発送等々、各位の目に見
えない苦勞が実を結ぶ日。午後四時
子定通りの開始。今回は、私達高卒
十六回生が式とアトラクションの進
行の任に当る。
志戸本同窓会長・川畑校長・今回
新しく桜萩会会長に選任された瀬戸
山会長の御挨拶等も滞りなく終り、
旧交を暖める人々が三々五々輪にな
ったように会場を包み始める。
同窓の仲間との懇談と併行し恒例
のアトラクションの開始。これらは
全て同窓生の御協力と善意とがあっ
て実現したもので、日舞の滝川さん
小林大介さんの配慮による新川ひろ
みショー・丸山さんのユネスコの話
松田陽子さんの歌唱指導教室等、パ
ラエティに富んだ内容が会場を沸か
す。
宴も終りに近くなり六月祭の名物
として表彰の栄に浴した。三十四人
の受賞者のうち女性は一一人。
戦争たけなわの昭和十八年八月、
夫が宮崎県から本県に転任し、前橋
に移転した。前橋は空襲で二十年八
月五日市街の八〇%を焼尽した。
幼い子供三人をかかえて、幸に自
宅は空襲を免れて、終戦となった。
前橋では三十一才で民生委員に、
また保護司にもなり、戦災者の方を
自宅に引き取り、一時は十数人の大
家族となった。
また、自宅を開放して、子供会を
開き、近所の子供さん三十人程と、
歌ったり、童話を話したり仲良しに
なつた。
その後、夫が桐生市に転任したの
で、それらの仕事をやめて、桐生に
転居した。
桐生ではユネスコの平和精神に感
銘を受け、そこに生涯の意義を見い
だし、ユネスコ協会の事務局長を引
き受けて、没頭した。
夫は昭和三十八年に県土木部を退
職して、建設会社に勤務、桐生を永
住の地と定めて、家を新築した。山
の手だったので、傾斜面に土台を築
いたが、基礎部分の空間を利用して
部屋を作った。之に増築して七室が
出来た。
こ、に群馬大学工学部の学生に來

になった抽選会が始まる。焼酎を始
めとする田舎の香りを漂わす賞品か
ら高価な飾り物迄、沢山の賞品が皆
さんの手に渡っていく。これらの賞
品の多くも当日の出席者が持参く
ださつたもの。
その間、次々と自慢の喉を披露さ
れる有志多彩。熱唱の余り、歌や伴
奏の音が大きいと他の階からクレ
ムがいついたが、申し訳ないけど無視
して続行。遂にファイナルが近づき
田中・高女・高校の順にそれぞれが
それぞれの思いにひたり若き日を思
い出して校歌の斉唱。毎回皆が胸を
熱くする一時である。
万才三唱の後、午後七時前第十二
回六月祭は無事幕を閉じた。
一応の成功をみたのは、多くの入
品の有形無形のお力添えの賜である。

ごあいさつ

高千穂会会長小倉 勲(高八回)
桜萩会の皆さん、明けましておめ
でとございます。
今年も高千穂会をよろしくお願
い致します。
こんな初夢をみました。
我が高千穂会の活動の拠点として
の高千穂会館が大阪の御堂筋に面
して完成したのでその落成記念パー
ティーの案内状が手許に届いたので
早速出かけてみました。大きな五
階建てのビルで一階は事務室、五階は
大きな会議室、二・四階は卒業生が
関西に就職又は入学したときここ
から通勤できるための寮で四年間
経つたら入居資格がなくなるとのこ
ろに頭張りましよう。

と、その他宮崎や東京から大阪に來
た人のための宿泊もできるという。
集まった人々の中には歴代校長先生
や同窓会本部の方々、桜萩会のメン
バー等多数である。
A君に会つたので、こんな会館の
建築の話も知らなかつたし、建築資
金はどうしたのかと聞いても笑つて
答えてくれない。
その内私に乾杯の音頭をとれと言
つてビールを注いだコップを持って
くる。断つたがマイクが故障してい
るので、できるだけ大きな声で「乾
杯」と言えばよいのだと言ふのでや
むなく承諾した。皆さんがコップを
上げて待っているが、どうしても乾
杯の大声が出ないので困り果て、無
理に大声を出した時、自分の声で目
が覚めました。
一瞬の夢でしたが楽しい夢でした。
私の家は神戸市内の須磨区で山を切
り開いた新興住宅地ですが、近所に
〇〇〇高校同窓会館と名前が大書し
てあるビルがあるので、こんな夢を
みたのだと思ひます。
今年も同窓会の発展とその充実の
ために頑張ります。

瀬戸山 孝一 (旧中十一回)
電話 (〇四三三) 四八七三三五
代表取締役 木下 剛 聡 (高一回)
電話 (〇四六三) 二二二二二五
代表取締役 西田 忠 司 (高四回)
電話 (〇三三) 七四五二一六四一
代表取締役 中脇 信 雄 (高四回)
電話 (〇四五) 三五一一九五三六

て貰い、ユネスコ運動に協力して貰
つた。部屋代は無償とし、東南アジ
アの留学生たちが困つていとい
うので、彼らを取りつた。
アフガニスタン、マレーシア、フ
ィリッピン、中国等である。日本人
学生との交流もあり、パーティを開
くと、仲々楽しかつた。
又わが国を訪れるアジア、アフリ
カ等の人々にも宿舎を提供し、国際
交流の場とした。又高校生のユネス
コ研修会を開いて、徹夜で話合
うこともあつた。
約二十年間のうち韓国、中国、タ
イ、フィリッピン、インド、バン
グラデッシュ等の諸国を訪問し、殊
にバングラデッシュでは大水害に遭
つてお終り。これを大ぶりの茶碗
にいれてフウフウいながら食べる。
お湯と飯が半分位ずつで寒い日には
もつてこいのものであつた。
寒い季節になったが寒さにはいろ
いろ表情がある。小林の寒さは高地
内陸であるため、大変な底冷えがす
る。霧島おろしの吹く日には戸外は
もちろん、家の中も隙間風などとい
う生易しいものでなく家中が風の通
り道となり、僅かな火の気を求めて
炬燵や火鉢に寄つてはみても背中
は寒気団の真只中といった具合であ
つた。
こういう日のユハは身体中が
たまり大変良いものである。お湯の

ユハ

平部 顕 達 (高八回)
「ユハ」は多分、湯飯の転訛かと
思う。よそのお宅でお目に掛つたこ
とがないので、これが小林地方一般
にあるものか自信がないが冬の飯の
喰ひ方として秀逸なものであり我が
家ではよくしたもので、冬になると懐
しく思ひ出す。
作り方はまずハガマにグラクラと
湯を沸し煮えださつてい所に冷飯、
それも季節柄柄たく固くなつてい
るのを放りこみシヤモジでかきまぜ飯
粒がほどよくバラけて来た所で塩味を
つけてお終り。これを大ぶりの茶碗
にいれてフウフウいながら食べる。
お湯と飯が半分位ずつで寒い日には
もつてこいのものであつた。
寒い季節になったが寒さにはいろ
いろ表情がある。小林の寒さは高地
内陸であるため、大変な底冷えがす
る。霧島おろしの吹く日には戸外は
もちろん、家の中も隙間風などとい
う生易しいものでなく家中が風の通
り道となり、僅かな火の気を求めて
炬燵や火鉢に寄つてはみても背中
は寒気団の真只中といった具合であ
つた。
こういふ日のユハは身体中が
たまり大変良いものである。お湯の

あ け ま し て お め で と う ご ざ い ま す
瀬戸口 千枝子 (旧姓/佐藤) (高一回)
電話 (〇四八九) 二八二五二五
代表取締役 西田 忠 司 (高四回)
電話 (〇三三) 七四五二一六四一
代表取締役 中脇 信 雄 (高四回)
電話 (〇四五) 三五一一九五三六
代表取締役 木下 剛 聡 (高一回)
電話 (〇四六三) 二二二二二五
代表取締役 西田 忠 司 (高四回)
電話 (〇三三) 七四五二一六四一
代表取締役 中脇 信 雄 (高四回)
電話 (〇四五) 三五一一九五三六
代表取締役 木下 剛 聡 (高一回)
電話 (〇四六三) 二二二二二五

小林高校同窓会ゴルフ大会開催

第四回東西対抗戦（高千穂会vs桜萩会）

高千穂会に第四戦目にして雪辱成る

東軍幹事 永崎 秀一郎

秋もたけなわ、ゴルフシーズンの到来と共に今年もまた東西対抗戦を開催した。

十月十八日（日）八ヶ岳連峰をバックに広がる眺望素晴らしい富士見高原ゴルフコース（長野県）で熱戦が展開された。前々日に十九号台風が上陸し、天候が心配されたが、幸い絶好のゴルフ日和であった。

参加メンバーは西軍が十一名、東軍十四名と、最高の参加者数で、前日犬養木堂の別荘に泊した。二、三〇〇坪の拡大な屋敷で、見事に造られた庭園、樹木の緑に囲まれた中で久しぶりに心の洗われるような気分になり、明日への鋭気を養った。

成績結果(新ペリア方式による)

氏名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
優勝 芝原 将文	46	46	92	19.2	72.8
2位 桑原 秀満	43	45	88	13.2	74.8
3位 永崎 秀一郎	48	54	102	26.4	75.6
4位 戸高 栄	50	50	100	24.0	76.0

団体戦
西軍平均 ネット 82.93
東軍平均 ネット 78.35

位はベストグロスの東軍桑原秀満氏（高六回）三位は東軍永崎秀一郎氏（四回）第四位は東軍戸高栄氏（高三回）という成績であった。

成績発表後、お互いの健闘を讃え合ってさわやかな気持ちで乾杯、来年度の再会を誓って帰途についた。毎年初参加者が増え、年中行事として定着しつつあることを嬉しく思っている。

防衛庁に在籍し、全国を転々と移動していましたが、六十年からは最後の勤務地として東京勤務となり、小林高四回卒の同窓会（二七会）に出席できるように偶々ゴルフ談話となり水崎幹事から、高千穂会、桜萩会合同コンペがあるが出てみないかとのご案内があり、十月十七、十八日、長野県富士見町、とのこと時場所良しで参加させて頂くことに決めました。ところが今年はやや遅咲き台風が、しかも近畿地方に出発前の十六日土曜に中部地方にも向かいそうな気配で気を揉みましたが永崎幹事から予定通りと言ってくれて十七日朝勇躍集合場所に伺った次第です。

横濱を出て八王子から中央高速で走行中台風余波による横風を受けましたが、現地に到着時分は風もすっかり止み、台風一過の晴天となり、未だ見ぬ諏訪湖まで足を伸ばしたものです。

夕刻宿泊所（白林荘犬養木堂別荘）に到着、参加者諸氏の面々を見回しましたが、高校卒業後三十五年も過ぎれば皆始めて見る思いの顔で先輩から俺を思い出さないかと言われオジン（失礼？）と紅顔の美少年をオパーラップさせながら高校時代の思い出に懸命でした。前夜祭は近くの農協センターで行われましたが、持ち帰りの焼酎でメイトルが上がり、総員

持歌披露でなかなかのものでした。さて本番ですが、ゴルフガイドブックのクラブにも掲載されているだけに全く素晴らしいコースで加えてフェアウェイまでベントグラスとは発体験でした。又週辺の眺望が、西に北アルプス、南に南アルプス、東北に八ヶ岳連峰と言いい様のない見事な景観でした。

来年は西軍主催との事、足の便を考えて良い計画を期待しています。最後に柳、水崎両幹事、地元世話人桑原氏の御苦勞に感謝すると共に小林高OBの益々の御発展と連係を念ずるものであります。

学年だより

朝広 伸夫（高四回）

本年は高校第四回卒業生にとって卒業三十五年目の節目の年であり、五年置きに開催する総会は、去る八月十六日に百余名が集い開催された。会は、母校で先輩で恩師でもある川畑校長先生の講話を拝聴し、その後会場を市内陰陽石の清流荘に移って盛大に開催された。

関東勢も十余名参加した。私共在京組は昭和二十七年に卒業したのに因んで、「二七回」と称し、二月七日前後に同窓の集いを開き今年もその時期が二月六日（日）と決定しています。私の学年は、終戦翌年の昭和二十一年に小林中学校・女学校に入学したが、学制改革で小林高校併設中学校に編入し、改めて高校に入学した。この間、女学校や血縁の木の併設校舎への移転、男女共学の導入、教科書の墨による記述事項の木柄など変化に富んだ学校生活を送った。この様な事情から友の多くは六年間共に過ごし、先輩諸兄姉のうち五年もの上級生から接しており、多くの恩師と先輩の方々にご交誼をいただいでい

母校通信

糸井 彪（中二回）

今年はいつまでも温かく正月が近づいた感じがしますが、桜萩会便りの原稿を書くときさすがにおしつまった感じがします。六月にお合いしてから既に半年が過ぎました。この間の主な学校行事としては、二年生の修学旅行（アルペンルート）、二年生のえびのキャンブ、二期初めの学園祭、遠足等多彩なものでした。こんな行事の中にも後輩諸君は、学習とスポーツの両立をはかるべく奮闘しています。特に三年生は昨年の進学・就職の成果を踏み越えるべく日夜努力を重ねているところでは

あります。スポーツ関係では、先ず高校駅伝があります。今年も、十一月八日、西都市の公認コースで行われ、昨年の記録を三分一秒も縮める。時間七分四十七秒の県内最高記録で、十八年連続、二十八回目の優勝を飾りました。この日は快晴で気温の上昇が心配されましたが、一区嘉味田が谷口浩美（旭化成）の持つ区間記録を破る快走をみせて波に乗り、以

高千穂、桜萩会コンペに参加して

斉藤 敏照（高四回）

防衛庁に在籍し、全国を転々と移動していましたが、六十年からは最後の勤務地として東京勤務となり、小林高四回卒の同窓会（二七会）に出席できるように偶々ゴルフ談話となり水崎幹事から、高千穂会、桜萩会合同コンペがあるが出てみないかとのご案内があり、十月十七、十八日、長野県富士見町、とのこと時場所良しで参加させて頂くことに決めました。ところが今年はやや遅咲き台風が、しかも近畿地方に出発前の十六日土曜に中部地方にも向かいそうな気配で気を揉みましたが永崎幹事から予定通りと言ってくれて十七日朝勇躍集合場所に伺った次第です。

夕刻宿泊所（白林荘犬養木堂別荘）に到着、参加者諸氏の面々を見回しましたが、高校卒業後三十五年も過ぎれば皆始めて見る思いの顔で先輩から俺を思い出さないかと言われオジン（失礼？）と紅顔の美少年をオパーラップさせながら高校時代の思い出に懸命でした。前夜祭は近くの農協センターで行われましたが、持ち帰りの焼酎でメイトルが上がり、総員

持歌披露でなかなかのものでした。さて本番ですが、ゴルフガイドブックのクラブにも掲載されているだけに全く素晴らしいコースで加えてフェアウェイまでベントグラスとは発体験でした。又週辺の眺望が、西に北アルプス、南に南アルプス、東北に八ヶ岳連峰と言いい様のない見事な景観でした。

来年は西軍主催との事、足の便を考えて良い計画を期待しています。最後に柳、水崎両幹事、地元世話人桑原氏の御苦勞に感謝すると共に小林高OBの益々の御発展と連係を念ずるものであります。

あ の 頃、そ して 今
伊藤 睦美（前性貞）
昭和十五年の辰年生れ、来年はめぐりめぐって、四度目の年女です。又、小林高校を卒業して、早や三十年の大会にのるのも目前です。三年間の高校生活の思い出はいろいろありますが、期待に胸をふくらませた「汽車通学」この言葉がもたらした、独特の楽しい雰囲気が一番印象に残っています。生物の解剖に使うかえるが、汽車の中で飛び出し、加久藤より乗られた水田先生に、大さわぎでつかまえてもらいました。友達や先生達、又都城まで通学する知人達との楽しい語りを持った飯野から小林までの、三十分間の通学時間が今も鮮明です。私達の卒業の頃は、就職も厳しく、学生にもいいアルバイトもなく、それぞれの波をかぶってきました。時は流れ、東京近郊に在住の人達で三十四年卒の同級会を年一回、開いておりましたが、各人各様の分野で活躍しています。毎回思うことですが、当時はまだ言葉一つをとってみても、都会と地方の差は歴然としており、地方出身のハンデに苦しんだものです。しかし今は、誰に遠慮することなく薩摩弁丸出しの愉快な同級生の集いになりました。



新しい年を迎え、希望も新たに新年号をお届けします。今回をもちまして第十一回を数え、無事発刊の運びとなりましたことは、偏に皆々様の御協力御支援の賜物と感謝する次第です。

編集後記
編集内容も、ややもするとマンネリ化になりがちなので、皆様方の御意見、新しいアイデアをお聞かせ

女子バスケットボールも県内では連勝記録は伸ばしていますが、県外勢との試合はいま一歩というところ。県総合選手権大会、県高校新人大会と優勝しましたが、宮崎市で行われた九州総合選手権では、福岡の中村学園に破れて3位、沖繩の国民体育大会では3回戦で神奈川に敗退しています。

学校関係の最後に、十月二十六日から三十日まで福島県で行われた第三十八回日本学校農業クラブ全国大会の競技大会で、家畜審査部部に編入されたが、農業鑑定園芸科に福元美山紀さんがそれぞれ入賞しています。本部の同窓会総会は、昭和三十一年度卒業生の当番で八月十六日、小林平安閣で行われ、同窓会会長には志戸本慶次郎氏（中九回）が再選され、副会長には安田芳規（中十五回）、

新しい年を迎え、希望も新たに新年号をお届けします。今回をもちまして第十一回を数え、無事発刊の運びとなりましたことは、偏に皆々様の御協力御支援の賜物と感謝する次第です。

編集内容も、ややもするとマンネリ化になりがちなので、皆様方の御意見、新しいアイデアをお聞かせ

あ け ま し て お め で と う ご ざ い ま す
株式会社 恒陽
代表取締役 大坪 彪一郎（高八回）
本社・東京都新宿区百人町
電話（〇三）三六〇二七二二
大阪へお出の折は是非
お立ち下さい
山口 呉服店
店長 山口 静美（高四回）
〒561 大阪府豊能郡豊能町ときわ台
電話（〇七）三八一二五五二
株式会社 上武
本社 浦和市白根七七一
電話（〇四八）五二一五六八
有坂久美子（旧姓後藤）
（高九回）
スタンドバー
はまゆう
堂 原 幸 子
河 野 ム ツ 子（高六回）
〒100 新宿区歌舞伎町一三二七
星屋ビル地下 階（新宿区役所前）
電話（〇三）二〇九一五三〇
洋傘及マフラーの御問屋
株式会社 前原光栄商店
前 原 裕 子（高六回）
（旧姓横山）
〒114 東京都台東区三筋一四四十五
電話（〇三）八六一一五七八